

地学と切手



マヨン火山の切手

P. Q.

最近噴火したマヨン (Mayon) 火山は フィリピン群島のルソン島南西にある 海拔 2,462m の成層火山でありレガスピー湾に望んで 海岸平野の上に直接そびえている。その対称的な形はほとんど数学的な完全さに達しており この点でこれに匹敵できるものとしては富士山 (日本) コトパクシ (エクアドル) があるだけといわれている (アーサー・ホームズ 竹内均訳 一般地質学 p.293)。フィリピンに在留した邦人は「ルソン富士」と呼んだりし 切手の題材として取り上げられることが多い。

マヨン火山はフィリピンにおける過去 300 年間の最も活動的な火山である。最古の活動の記録は 1616年までさかのぼることが出来るが 詳細は不明である。くわしく記載された噴火は 1776年の 6 日間にわたった噴火であり 以来 約40回の噴火をくり返し 1800年以來でも 平均 5年に 1回の割合という活動を示している。

マヨン火山の頂上には直径約500m 深さ50~100mの火口があり 山麓の直径は約16km である。美しい円錐形は常に中心噴火をくり返して来たことによつて形成されたことを示すのであろうが 現在は頂上の 500m は岩滓や火山礫からなり 北斜面と西斜面はほとんど頂上まで植生によつて覆われているが 東と南の斜面は裸地が多い。これは最近数世紀間の噴火の状態を示すのであろう。

最も破壊的な噴火は 1897年の 6月25 ~26日に起つた。この年は 5月13日に付近に強い地震が感じられたが その直後に東斜面に水蒸気を含んだ火山灰が流れ下つて 1部落を直撃した。6月21日から24日にわたり連日火砕流?が発生し 24日にはカマリの町が火山灰の雲に包まれた。25日に最も激しい噴火が始り それは17時間に及んだ。大量の灼熱した溶岩 火山弾 火山礫が抛り出され 山腹をかけ下つた。この噴火による犠牲者は数 100人に達したといわれる。

1938 1943 1947と続いた次に1968年 4月21日に始つた噴火は 火山科学の観

点から最も重要なものであり 噴火の前後にわたり科学的な観察が加えられた。前年11月からの地震 磁力の減少 地鳴り 傾斜変化から噴火の予報が 4月21日の深夜発せられた。噴火は 5月20日まで続き その間に溶岩流 火砕流が山頂火口から噴出し それらに伴う 2次泥流も山麓一帯を襲つたが人命の損傷がなくてすんだ。

今回は10年振りに噴火したが すでに昨年11月から前ぶれが認められており 3月には小噴火があつた。5月3日から活動を始め 5月20日に頂点に達した。山頂火口の南西側から溶岩が流出し 先端は海拔 450m までに達し わずかながらも 6月下旬現在で前進がつづいている。先端は40m以上の厚さに達し 絶えず溶岩塊が崩れており 山頂からは灼熱した溶岩塊の崩れ落ちるのが夜空に映えている。すでに流した溶岩の量は2000万 m<sup>3</sup> と算出され 7~9月の雨期が心配されている。

2c は1932年 20c は1947年発行の普通切手である。5c は1955年発行 ロータリークラブ50周年切手 3種のうち 70s は1971年発行 観光切手数種のうちである。

この外にも日本占領時代にマヨン火山と富士山をスーパーポーズしたもの 2種 田植のバック 1種がある。

フィリピンでも現地風俗聖家族のバックや 最近クック諸島から発行された大航海者シリーズとして レガスピー記念にも画かれている。